

三重の森林づくりに関する 県民意識調査結果の概要

第1章 調査概要

(1) 調査目的

本県では、平成26年度より「みえ森と緑の県民税」を導入し、「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」の2つの基本方針に則り、5つの対策に沿った事業を、県と市町で役割分担のうえ実施してきました。この調査は、県民の皆さんの森林づくりに関する意識を把握することで、「みえ森と緑の県民税」を活用した今後の三重の森林づくりに活用していきます。

(2) 調査期間

令和4年7月8日～8月9日

(3) 調査方法

郵送配付、郵送回答方式・WEB回答方式併用

(4) 回収状況

発送数	回収数	うち郵送回収	うちWEB回収	回収率
5,000件	2,278件	1,738件	540件	45.6%

(5) 調査内容

1. 回答者属性
2. 森林との関わりについて
3. 森林の多面的機能について
4. みえ森と緑の県民税について
5. 森林づくりに関する情報について
6. 森林づくりに関するご意見・ご要望

第2章 調査結果

1. 回答者属性

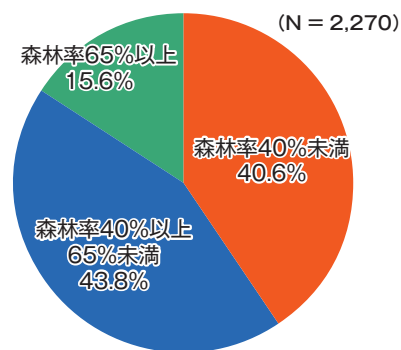
(1) お住いの市町

「四日市市」が16.5%と最も高く、次いで「津市」が16.2%、「鈴鹿市」が11.7%となっています。

(上段：件数、下段：%)

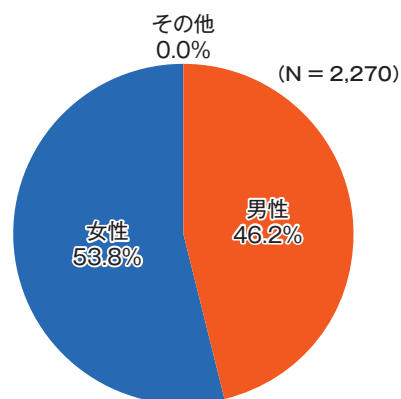
全体	森林率40%未満										
	木曾岬町	川越町	東員町	明和町	朝日町	四日市市	鈴鹿市	桑名市	玉城町		
2,270	7	15	37	28	8	375	266	170	16		
100.0	0.3	0.7	1.6	1.2	0.4	16.5	11.7	7.5	0.7		
	森林率40%以上65%未満										
	菟野町	志摩市	伊勢市	名張市	多気町	いなべ市	津市	伊賀市	亀山市		
	50	68	149	98	24	51	367	118	69		
	2.2	3.0	6.6	4.3	1.1	2.2	16.2	5.2	3.0		
	森林率65%以上										
	御浜町	松阪市	鳥羽市	紀宝町	度会町	南伊勢町	熊野市	紀北町	大紀町	尾鷲市	大台町
	8	207	18	13	10	20	16	20	9	22	11
	0.4	9.1	0.8	0.6	0.4	0.9	0.7	0.9	0.4	1.0	0.5

お住いの市町の森林率地域区分でみると、「森林率40%以上65%未満」が43.8%と最も高く、次いで「森林率40%未満」が40.6%、「森林率65%以上」が15.6%となっています。



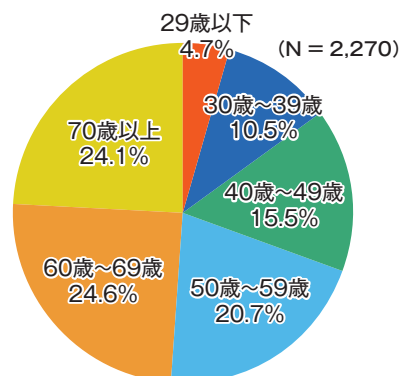
(2) 性別

「女性」が53.8%、「男性」が46.2%、「その他」が0.0%となっています。



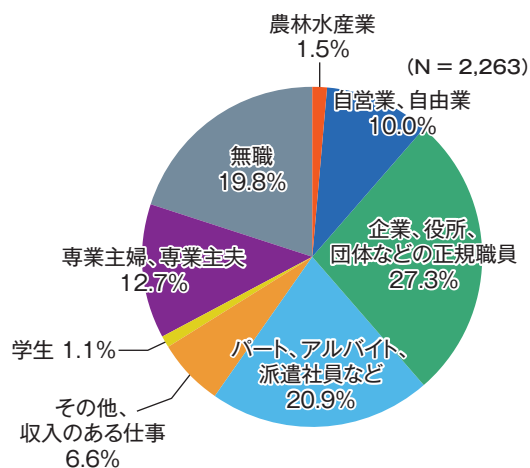
(3) 年齢

「60歳～69歳」が24.6%と最も高く、次いで「70歳以上」が24.1%、「50歳～59歳」が20.7%となっています。



(4) 職業

「企業、役所、団体などの正規職員」が27.3%と最も高く、次いで「パート、アルバイト、派遣社員など」が20.9%、「無職」が19.8%となっています。

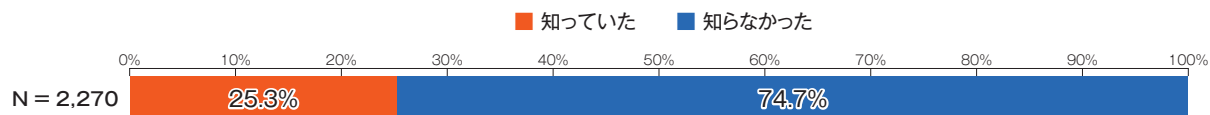


2. 森林との関わりについて

(1) 三重県の森林割合の認知度

問5：三重県は県土の3分の2が森林です。そのうち、約6割は人が植え、育てた人工林（スギやヒノキ）と呼ばれる森林であることを知っていましたか。（あてはまる番号1つだけに○をつけてください。）

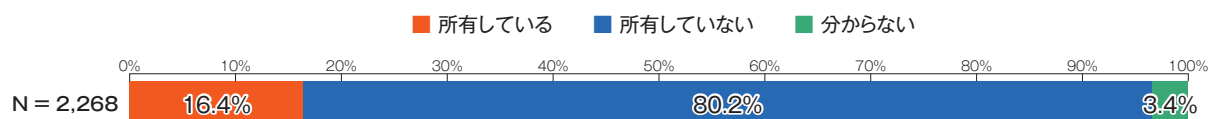
「知っていた」は25.3%、「知らなかった」は74.7%でした。



(2) 家族の森林所有の有無

問6：あなた、もしくはあなたの家族（同居されている家族に限定）は、森林を所有していますか。（あてはまる番号1つだけに○をつけてください。）

「所有していない」が80.2%、「所有している」が16.4%、「分からない」が3.4%となっています。



(3) 子どもの頃に森林とふれあった機会の程度

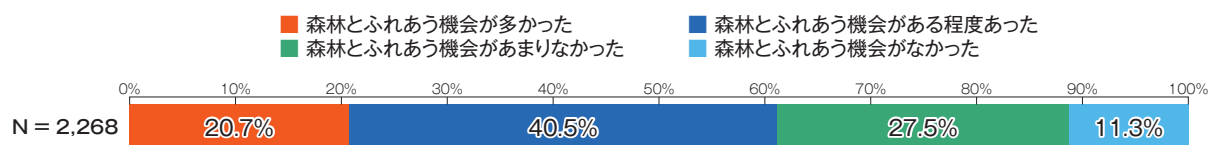
問7：あなたが子どもの時、森林とふれあう機会はこの程度ありましたか。

（あてはまる番号1つだけに○をつけてください。）

※森林とふれあう機会は、森林をフィールドとした遊び、学び、地域活動など、以下の例を参考に幅広く捉えてください。

（例）森林散策、虫取り、登山、キャンプ、野外体験保育、森林体験学習、植樹活動など

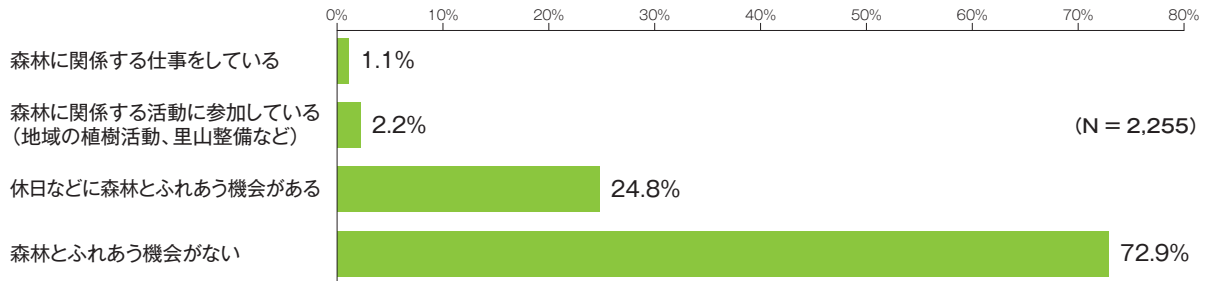
「森林とふれあう機会がある程度あった」が40.5%と最も高く、次いで「森林とふれあう機会があまりなかった」が27.5%、「森林とふれあう機会が多かった」が20.7%、「森林とふれあう機会がなかった」が11.3%となっています。



(4) 森林との現在の関わり

問8：あなたと森林の現在の関わりについて教えてください。
 (あてはまる番号すべてに○をつけてください。複数回答可)

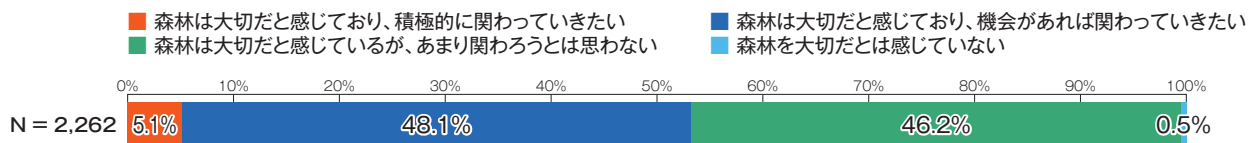
「森林とふれあう機会がない」が72.9%と最も高く、次いで「休日などに森林とふれあう機会がある」が24.8%、「森林に関係する活動に参加している（地域の植樹活動、里山整備など）」が2.2%となっています。



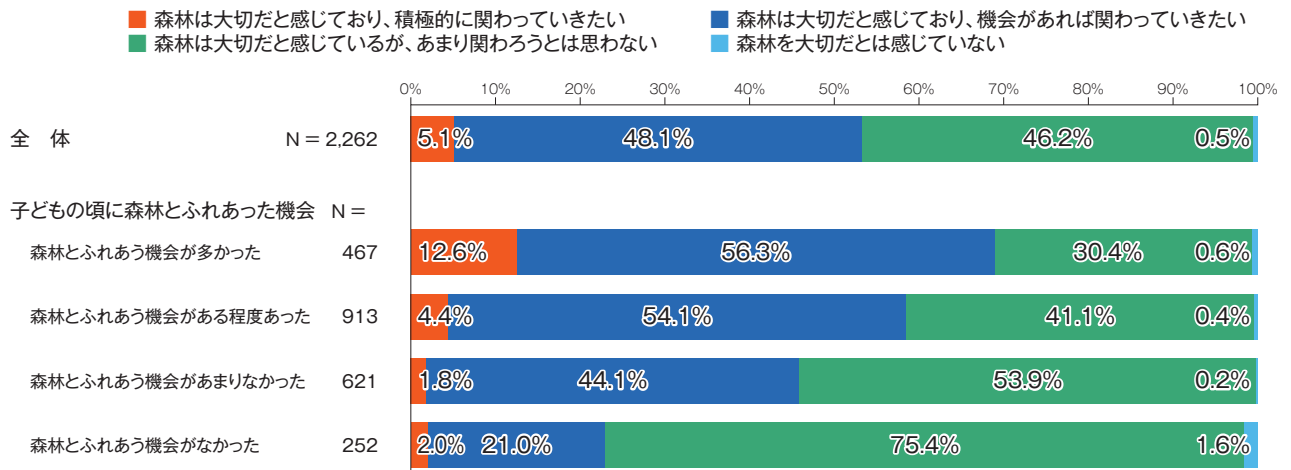
(5) 森林について感じていること

問9：あなたは森林についてどのように感じていますか。(あてはまる番号1つだけに○をつけてください。)
 ※森林との関わりについては、森林に関係する仕事や活動（植樹活動や里山整備など）だけでなく、森林とふれあう機会も含めて、今後どのように感じているかお答えください。

「森林は大切だと感じており、機会があれば関わっていききたい」が48.1%と最も高く、次いで「森林は大切だと感じており、あまり関わろうとは思わない」が46.2%、「森林は大切だと感じており、積極的に関わっていききたい」が5.1%となっています。『森林と関わっていききたい』（「森林は大切だと感じており、積極的に関わっていききたい」と「森林は大切だと感じており、機会があれば関わっていききたい」の合計）と回答した割合は、53.2%と半数程度となっています。



子どもの頃に森林とふれあった機会別にみると、機会が多くなるにつれて、『森林と関わっていききたい』の割合も高くなっています。

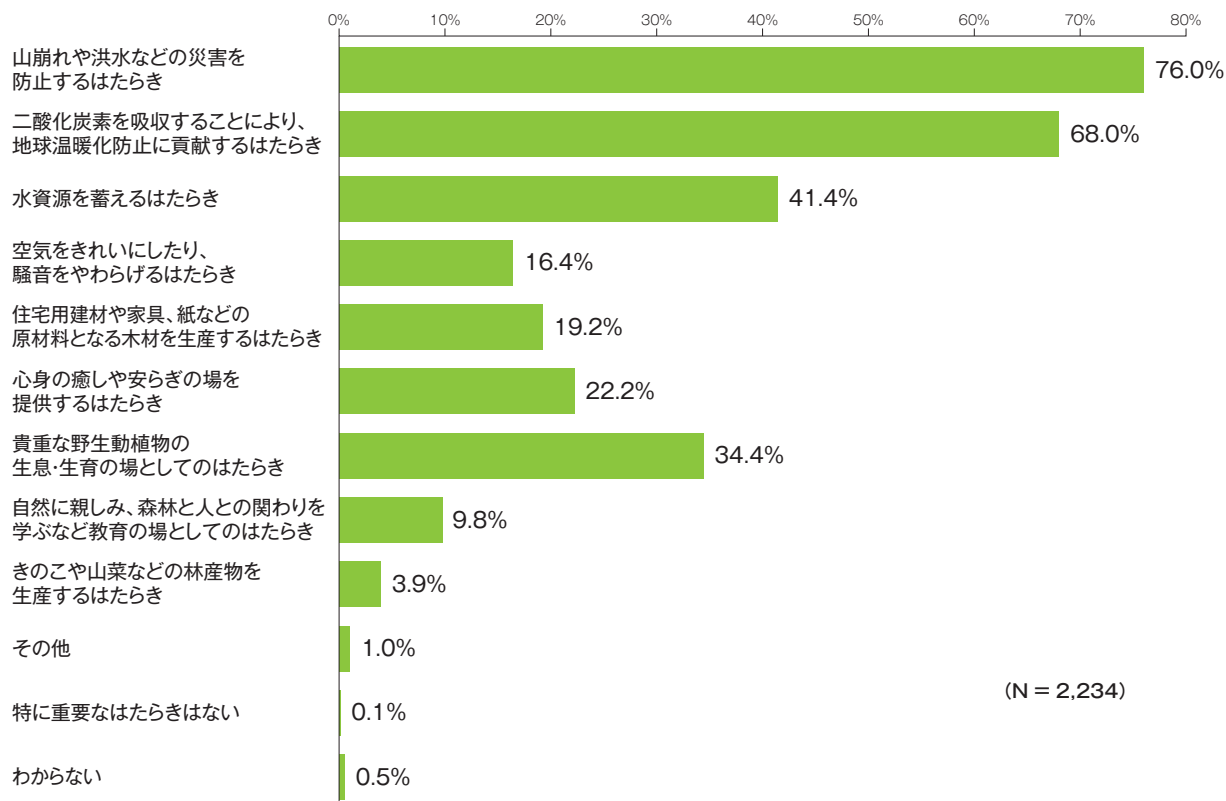


3. 森林の多面的機能について

(1) 森林のはたらきのうち、重要と考える機能

問10-1：森林には、木材等の資源の供給のほか、土砂災害の防止、水源のかん養、地球温暖化防止、生物多様性の保全、保健・休養など、様々なはたらきがあり、私たちはこの森林の「恵み」を享受しています。これらの森林のはたらきは「森林の有する多面的機能」と呼ばれています。あなたは次の森林のはたらきのうち、重要であると考えられるものは何ですか。（あてはまる番号に3つまで○をつけてください。複数回答可）

「山崩れや洪水などの災害を防止するはたらき」が76.0%と最も高く、次いで「二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献するはたらき」が68.0%、「水資源を蓄えるはたらき」が41.4%となっています。

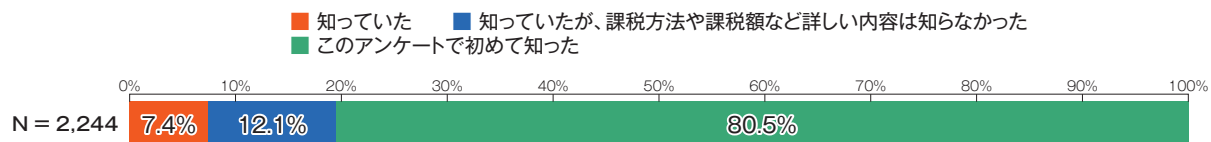


4. みえ森と緑の県民税について

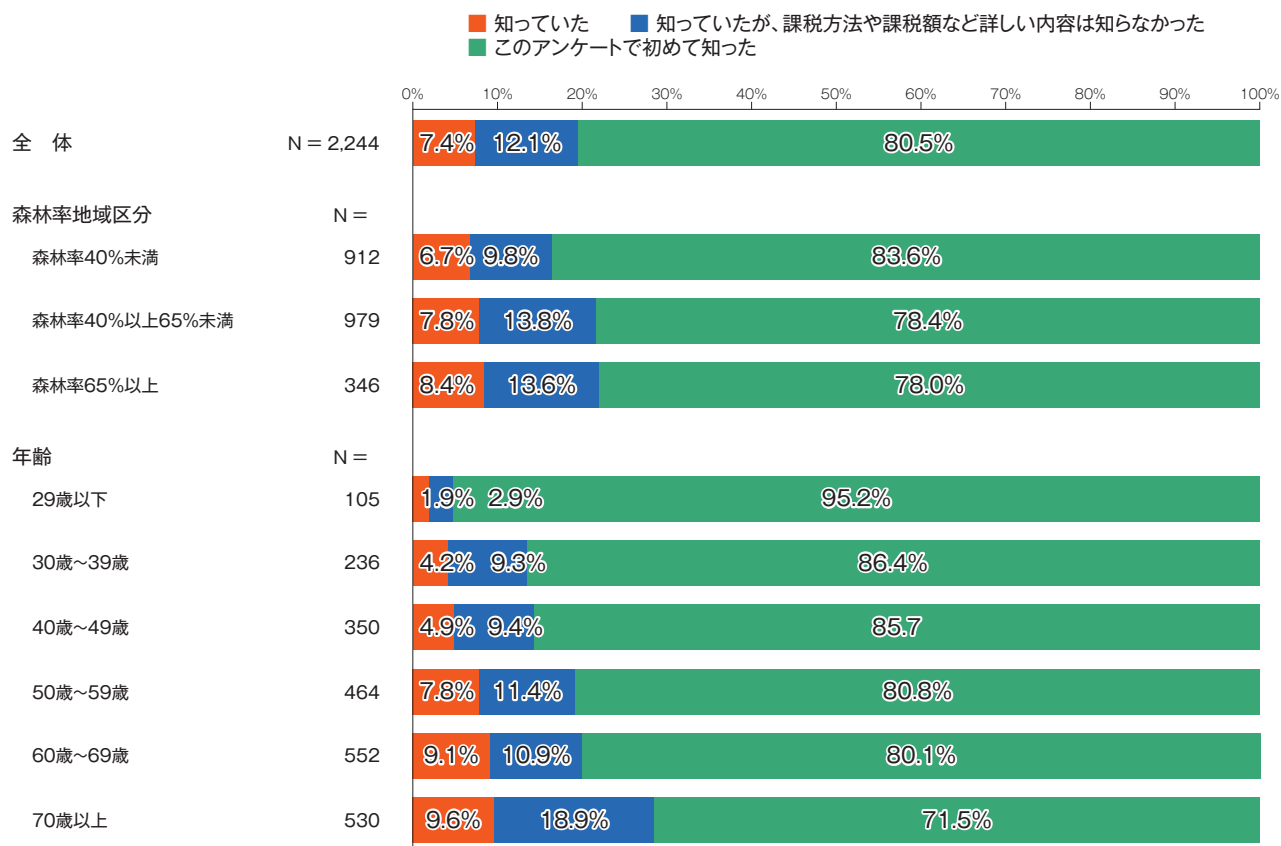
(1)「みえ森と緑の県民税」の認知度

問11：あなたは、「みえ森と緑の県民税」を知っていましたか。
 (あてはまる番号1つだけに○をつけてください。)

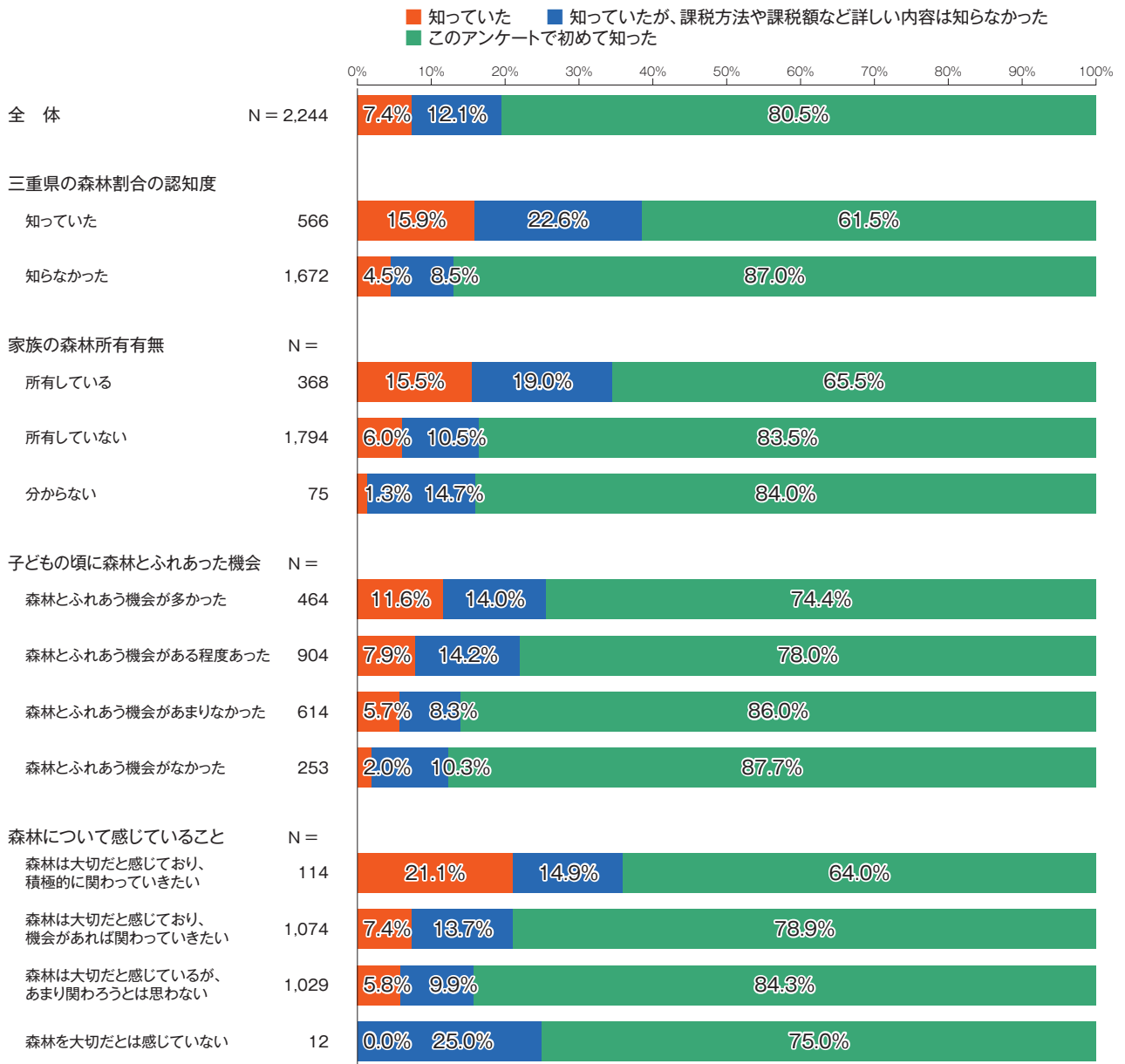
「このアンケートで初めて知った」が80.5%と最も高く、次いで「知っていたが、課税方法や課税額など詳しい内容は知らなかった」が12.1%、「知っていた」が7.4%となっています。



森林率地域区分別にみると、森林率が高くなるにつれて「知っていた」の割合が高くなっています。また年齢別にみると、年代が高くなるにつれて「知っていた」の割合が高くなっています。



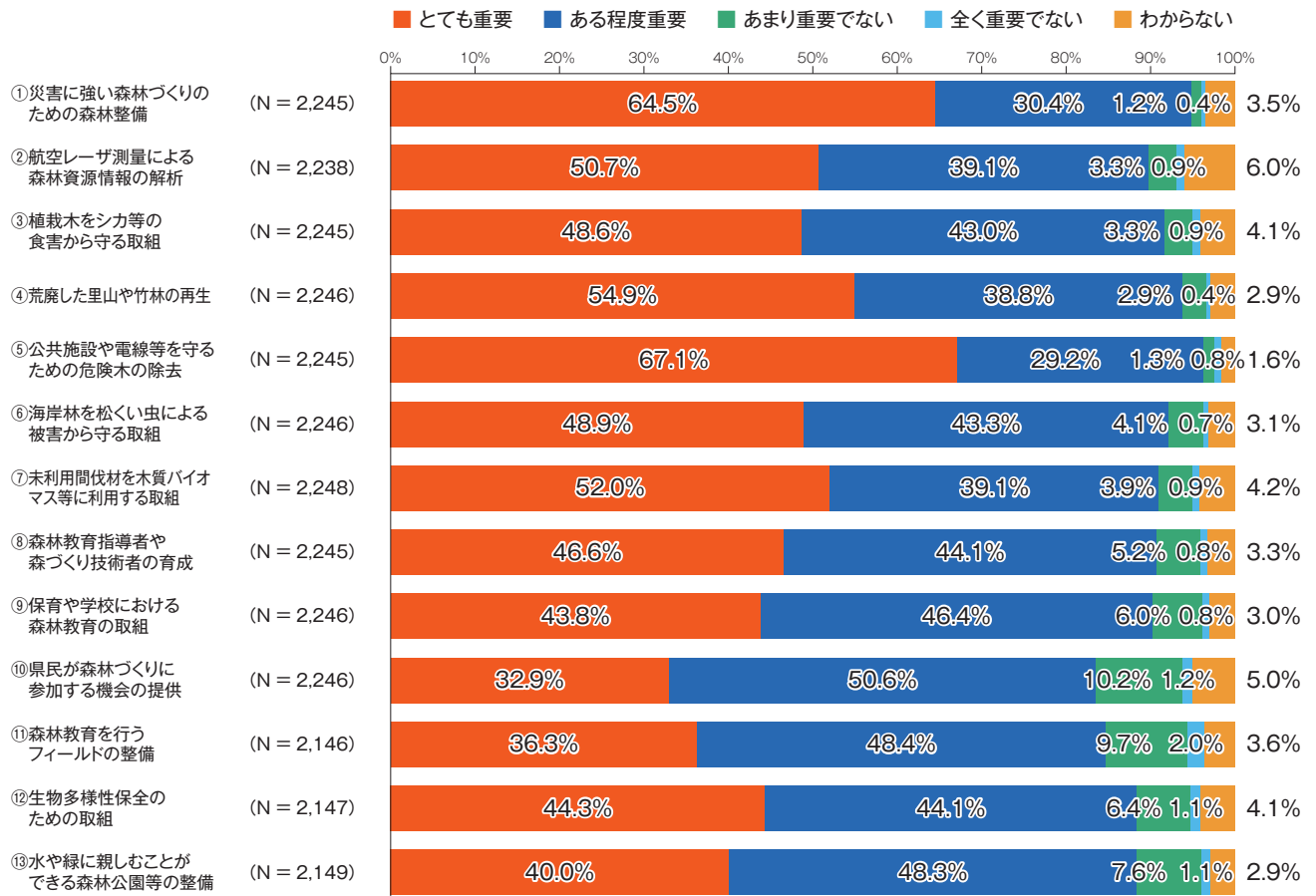
三重県の森林割合の認知度別にみると、森林割合を認知している人ほど「みえ森と緑の県民税」についても「知っていた」と回答した割合が高く、「知っていたが、課税方法や課税額など詳しい内容は知らなかった」とあわせると4割弱となっています。家族の森林所有有無別でも、「所有している」では「所有していない」、「分からない」に比べて「知っていた」と回答した割合が高くなっています。また、子どもの頃に森林とふれあった機会別にみると、ふれあった機会が多くなるにつれて「知っていた」の割合が高くなっています。



(2) みえ森と緑の県民税を活用した各種取組の重要性の認識

問12：県では、「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるため、「みえ森と緑の県民税」を活用し、市町とともに次の①～⑬のような取組を実施しています。こうした取組の重要性について、どのように思いますか。（それぞれあてはまる番号1つだけに○をつけてください。）

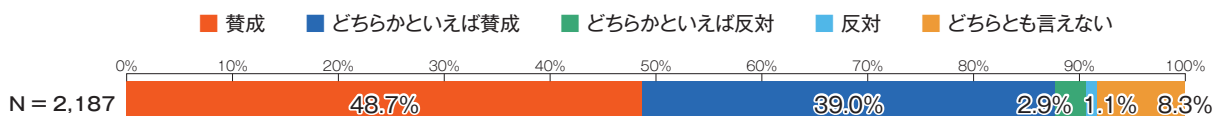
取組の重要性において、「とても重要」では「⑤公共施設や電線等を守るための危険木の除去」が67.1%と最も高く、次いで「①災害に強い森林づくりのための森林整備」が64.5%、「④荒廃した里山や竹林の再生」が54.9%となっています。また、「⑩県民が森林づくりに参加する機会の提供」及び「⑪森林教育を行うフィールドの整備」では「とても重要」が3割強に留まっています。



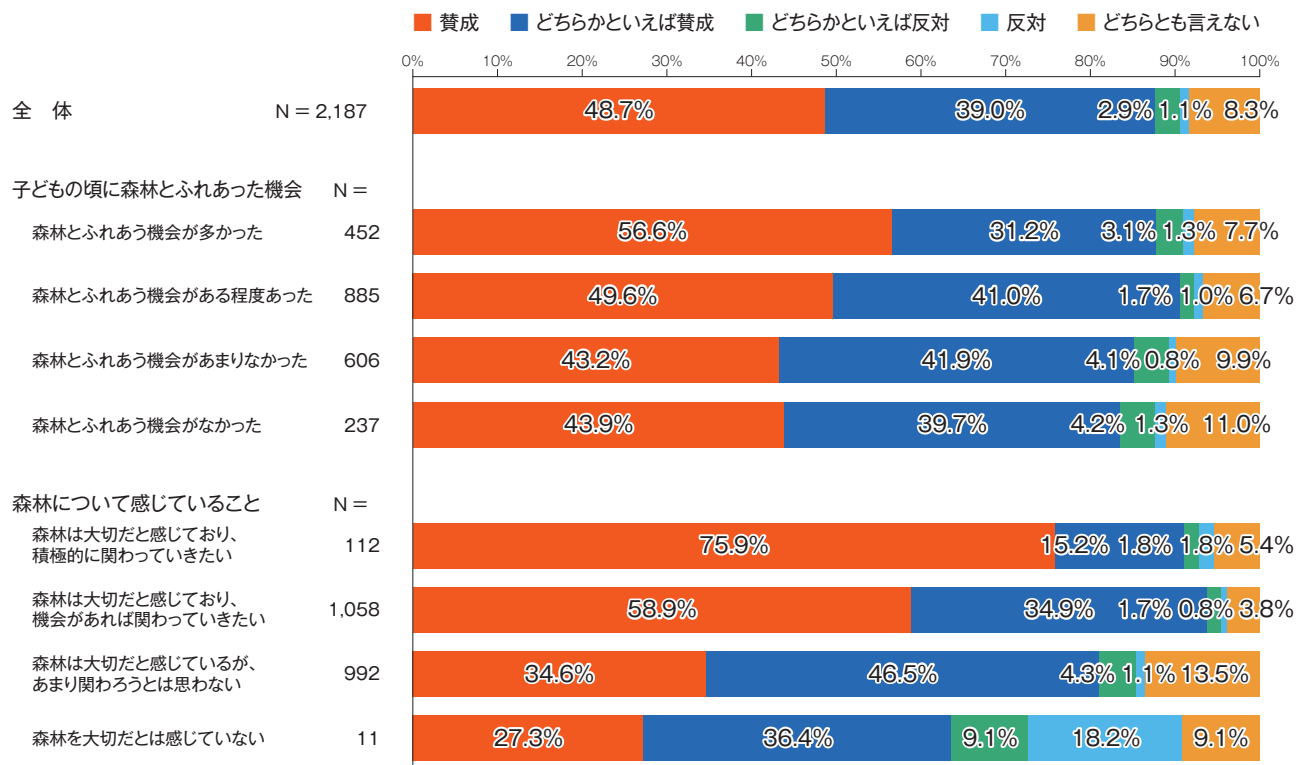
(3) 第3期の「みえ森と緑の県民税」継続への賛否

問13：「みえ森と緑の県民税」の制度については、毎年度、「みえ森と緑の県民税評価委員会」により評価・検証を行い、必要に応じておおむね5年ごとに見直すこととしています。平成26年度に導入した「みえ森と緑の県民税」は、現在、第2期（令和元年度～令和5年度）の取組を実施しているところであり、第3期（令和6年度～令和10年度）に向けて、今後、制度の見直し議論を進めていく予定です。第3期も、「みえ森と緑の県民税」を活用し、問12のような取組を通じて「災害に強い森林づくり（①～⑦の取組）」と「県民全体で森林を支える社会づくり（⑧～⑬の取組）」を進めることについて、あなたはどのように思いますか。（あてはまる番号1つだけに○をつけてください。）

「賛成」が48.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」が39.0%、「どちらとも言えない」が8.3%となっています。



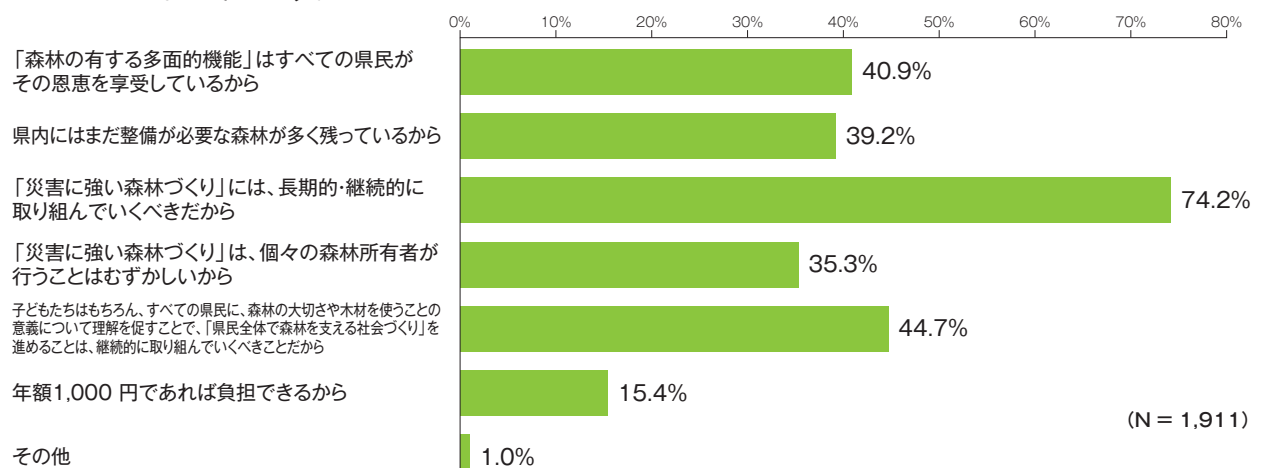
子どもの頃に森林とふれあった機会別にみると、「森林とふれあう機会が多かった」では「賛成」が56.6%と半数を超え、他の項目に比べて高くなっています。森林について感じていること別にみると、「森林は大切だと感じており、積極的に関わっていききたい」では「賛成」が75.9%と特に高くなっています。また、関わっていききたいと感じている割合が高くなるにつれて、「賛成」が高くなっています。



(4) 取組継続に『賛成』の理由

問14：問13で「1：賛成」または「2：どちらかといえば賛成」を選ばれた理由を教えてください。（あてはまる番号に3つまで○をつけてください。複数回答可）

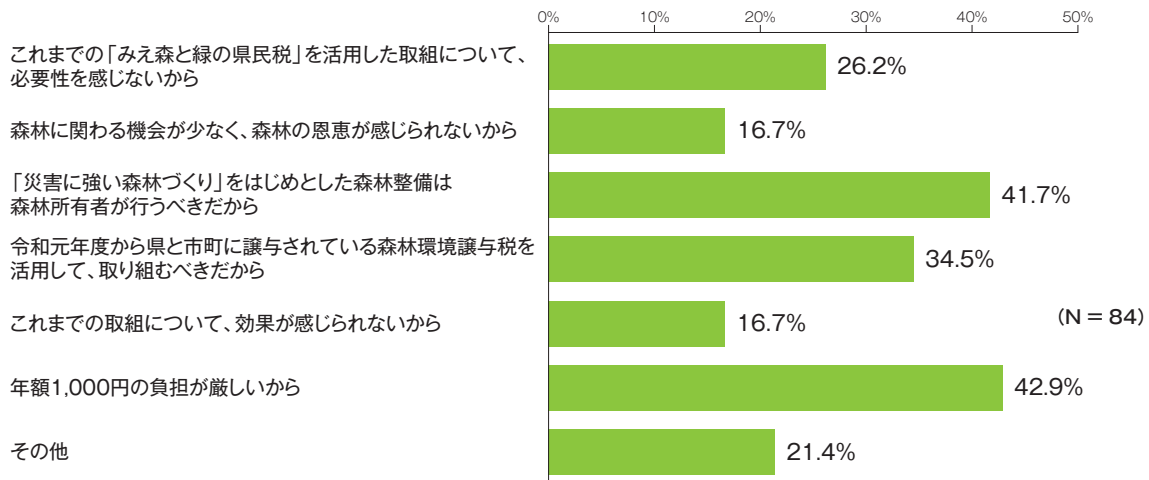
「[災害に強い森林づくり]には、長期的・継続的に取り組んでいくべきだから」が74.2%と最も高く、次いで「子どもたちはもちろん、すべての県民に、森林の大切さや木材を使うことの意義について理解を促すことで、[県民全体で森林を支える社会づくり]を進めることは、継続的に取り組んでいくべきことだから」が44.7%、「[森林の有する多面的機能]はすべての県民がその恩恵を享受しているから」が40.9%となっています。



(5) 取組継続に『反対』の理由

問15：問13で「3：どちらかといえば反対」または「4：反対」を選ばれた理由を教えてください。
 (あてはまる番号に3つまで○をつけてください。複数回答可)

「年額1,000円の負担が厳しいから」が42.9%と最も高く、次いで「「災害に強い森林づくり」をはじめとした森林整備は森林所有者が行うべきだから」が41.7%、「令和元年度から県と市町に譲与されている森林環境譲与税を活用して、取り組むべきだから」が34.5%となっています。



5. 森林づくりに関する情報について

(1) 森林づくりに関する情報を目にする媒体

問16-1：あなたは、森林づくりに関する情報を、どのような媒体で目にしますか。
 (あてはまる番号すべてに○をつけてください。複数回答可)

「テレビ」が49.7%と最も高く、次いで「県広報誌」が36.1%、「新聞」が31.4%となっています。

